

第2弾

ページ増加でさらに充実!



題材でできること

前号に続き、『美術資料』における「短時間でつくる」題材(比較的時間をかけずに制作できる題材)の活用について、著者の横田学先生から解説していただきます。



よこた まなぶ

横田学先生 プロフィール

これまでに、京都市立芸術大学教員(2002~2020年)、京都府立学校教諭、京都府教育庁指導部学校教育課指導主事、高等学校学習指導要領解説作成協力者(文部科学省)、評価規準研究開発協力者(国立教育政策研究所)、中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループ委員などに携わる。現・京都市立芸術大学名誉教授。

Q.1



題材は、年間指導計画の中でどのように位置付けられるのでしょうか?

A

「短時間でつくる」題材と教育課程の関係について、「中学校学習指導要領解説美術編(平成29年7月、文部科学省)」ではどのように示されているか見てみましょう。

■第1学年の「A表現」(2) 技能の指導について

※下線部は秀学社で記載

原則として「A表現」(1) のア及びイの一方と組み合わせて題材を構成することとしているが、特定の表現技法や技能などを学習させるために特に必要な場合は、比較的少ない単位時間で単独に扱うことも考えられる。(解説 P.66)

■第1学年の表現及び鑑賞の指導について

育成を目指す資質・能力を偏りなく身に付けることができるようにする必要がある。そのため、比較的少ない単位時間で各指導事項の内容が身に付くような題材を効果的に位置付け、指導計画を作成することが大切である。(解説 P.80)

■第2学年及び第3学年の「A表現」(1) のア及びイと、(2) は原則として関連付ける。

しかし、時には指導の効果を高めるために、「A表現」(1) のア及びイの発想や構想に関する指導内容や、(2) のア及びイの技能に関する指導内容のみを比較的少ない単位時間で単独に扱った題材の設定も考えられる。(解説 P.119)

上記のように、第1学年では限られた年間指導時数の中で、表現及び鑑賞に関する資質・能力が幅広く身に付くようにすることが求められています。そのため、比較的長い時間をかけて指導する題材と短い指導時間の題材とを組み合わせるなど、「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連や指導内容によって、年間に指導する教材のバランスや1つの題材に充てる時間数などを工夫することが必要となります。

さらに、より年間指導時数の少ない第2学年及び第3学年においても、年間に指導する他の題材との関連や配当時間などについて検討することを前提として、比較的短い指導時間の題材の設定が必要不可欠となっています。

『美術資料』に掲載した「短時間でつくる」題材は、短い指導時数でも以下のような指導内容などが設定できるので、指導の効果を高める視点から、年間に指導する題材の内容やねらいとの関係も考慮しながら有効に活用したいものです。



題材で期待できる主な指導内容

ページ	題材名 [内容]	主な指導内容の例*
39	「情景を描く」絵の具で心の空を描いてみよう [絵画]	[知識] 色彩の性質、感情と色彩 [技能] 意図に応じた混色・グラデーション
41	石の動物を描く [絵画 / 立体に描く]	[技能] アクリル絵の具の特性を生かした表現 [思・判・表] 自然物からの見立て
42	感情や感じ取ったイメージを、溶かしてぼかす色鉛筆で表現してみよう [絵画]	[知識] 形や色彩の性質、感情と形や色彩 [技能] 意図に応じた混色・グラデーション
63	スチレンボードを使って回転版画をつくろう [版画]	[技能] 版画・色の重なり
68	バルサ材を使って「にぼし」をつくる [彫刻]	[技能] 彫刻刀の特性を生かした制作
69	石けんを使って抽象彫刻をつくる [彫刻]	[技能] 彫刻刀の特性を生かした制作 [思・判・表] イメージを立体に
77	七宝のブローチをつくろう [工芸]	[技能] 意図に応じた焼成(七宝)
83	消しゴムはんこ(スタンピング)で連続模様をつくろう [工芸 / デザイン]	[思・判・表] 模様の構成(連続模様)
87	メッセージを伝えるイラストレーションを描いてみよう [デザイン]	[知識] 形や色彩の性質、感情と形や色彩
97	ピクセルアート [デザイン]	[技能] コンピュータの特性を生かした表現



※期待できる主な指導内容については、既習の学習内容や生徒の実態によって異なります。

Q.2



「短時間でつくる」題材は、具体的にどのような時に、どう活用すればよいのでしょうか？
また、その評価はどのようにすればよいのでしょうか？

A

Q.1の回答にもあるように、限られた指導時数の中で必要な資質・能力を計画的に身に付けるようにすることが求められています。そのため、「短時間でつくる」題材の配置などについては、他の題材との関係がポイントになり、さらにその授業の評価にも関わることになります。ここでは、「短時間でつくる」題材の配置と評価について大きく3つに分類して説明したいと思います。

①評価を確かめる小テスト的活用

時間をかけて行う表現の題材では、授業中に生徒の活動をしっかり観察しようとしても、制作の段階によって異なる材料・用具の準備、安全指導、進度の調整などに追われることも多くなります。完成した生徒作品やワークシート、ポートフォリオも評価資料となりますが、特定の指導内容がしっかり身に付いているか、また時間が経過してからも指導内容が定着しているか確認するために、小テストのように「短時間でつくる」題材を実施することもできます。

②指導内容の補完的活用

「立体に表現する題材もさせたい…」 「版画の表現も経験させたい…」 しかし、限られた指導時数の中では難しいと言われる先生方も多いです。そのような時に、他の題材ではカバーできない表現や技法などを「短時間でつくる」題材で補完することも有効です。

③その他の活用

予期せぬ自然災害などによる休校措置など、指導計画を急遽変更せざるを得ないこともよくあります。そのような時でも「短時間でつくる」題材のいくつかを指導のレパートリーに入れておけば、心強いことでしょう。また、部活動の活動内容に組み入れたり、美術科として「ものづくり体験」などの開催を依頼されることもあります。そのような際にも、「短時間でつくる」題材は活用できるのではないのでしょうか。

①評価を確かめる小テスト的活用の例

水彩絵の具・色鉛筆
アクリル絵の具
などを使用した表現の指導
しっかり身に付いているか
確かめたい

【知識】

○形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解できているか？

【技能】

○偶然面白い表現が出来る事も…
混色など、材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫できているか？
○材料や用具の特性などから制作手順などを考え、見通しをもって制作できるか？

学期末
学年末
などに
計画する



○P.39 「情景を描く」
絵の具で心の空を描いてみよう

[知] イメージした情景と色彩の性質の関係が理解できたか。

[技] 意図に応じて、描画材を工夫してグラデーションなど表現の工夫ができたか。

○P.41 石の動物を描く

[技] アクリル絵の具の特性を生かして見通しをもって制作できたか。

○P.42 感情や感じ取ったイメージを、溶かしてぼかす色鉛筆で表現してみよう

[知] イメージした感情と形や色彩の性質の関係が理解できたか。

[技] 意図に応じて、混色やグラデーションなど表現の工夫ができたか。

②指導内容の補完的活用の例

年間の指導計画の中で
版で表す題材
立体に表す題材
コンピュータを使った題材
などに充てる時間が取りにくい

【技能】

○特に、その題材でしか使用しない材料や用具、技法などを生かし、意図に応じて制作できるか？

【思考・判断・表現】

○その題材ならではの発想や構想の能力が身に付いているか？

指導計画
に
含める



○P.63 スチレンボードを使って回転版画をつくらう

[技] 意図に応じて、色の重なりなど版画技法の特性を生かして制作できたか。

○P.69 石けんを使って抽象彫刻をつくる

[技] 彫刻刀の特性を生かして制作できたか。

[思・判・表] イメージしたことから主題を生出し、空間や立体を発想・構想することができたか。

○P.97 ピクセルアート

[技] 意図に応じてコンピュータなどの特性を生かして制作できたか。

Q.3



「短時間でつくる」題材について特に留意すべきことはどのようなことでしょうか？

A

比較的多くの指導時数を充てる題材と「短時間でつくる」題材との特性の違いを意識して指導することが大切です。

コツコツと粘り強く目標に向かって取り組む題材は、長い時数を充てないと指導できません。一方、「短時間でつくる」題材の場合は、一つの作品が完成した後に改善点を考えさせ、再度新しい作品に挑戦させることも可能です。また、P.63「スチレンボードを使って回転版画をつくらう」などでは、版を制作するのに要する時間は少なく、その殆どの時間を刷る活動に充てられます。そのため、同じ版で色を変えたり、色の重なり順番を変えて刷るなど、版画表現ならではの複数性を生かした授業展開が可能となります。

指導時数の長短による、指導内容の変化に着目してみてください。



秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

- 『美術資料』の詳細や、ワークシートなど各種ダウンロード資料を提供しています。

秀学社Webサイト
<https://www.shugakusha.co.jp/>



まなび!net へのご意見や
著者へのメッセージ、ご質問など、
「お問い合わせフォーム」よりお気軽にお寄せください。

先生の声
をお聞かせください。

お問い合わせフォーム **ココから!**
https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

